

富士箱根伊豆国立公園ステップアッププログラム2025 概要版

2022（令和4）年3月 発行
2023（令和5）年12月 改訂

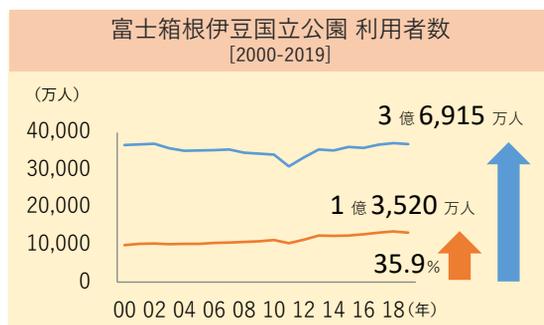
富士箱根伊豆国立公園（全体）

はじめに

- 本プログラムは、同国立公園の関係機関（国・自治体・民間事業者）と連携して同プロジェクトを推進するため、2025(令和7)年度まで取組の方向性や具体的なプロジェクト内容等を定め、共有することを目的とする。
- 新型コロナウイルス感染症収束の目途が立たず、訪日外国人観光客の入国制限の緩和時期も不透明な状況にあることから、収束前のwith コロナ期及び収束後の after コロナ期における各実施主体の取組指針とする。
- 同プログラムは、主に富士山麓エリアと箱根エリアを対象として作成されたものである。

公園全体の現状

- 富士箱根伊豆国立公園の利用者数は1億3,520万人。
- 訪日外国人利用者数は、309万人、延べ宿泊者数は239万人泊。
- 全国立公園に占める富士箱根伊豆国立公園の割合は、上記3つのいずれにおいても高い状況にある。



出典：環境省「自然公園等利用者数調 国立公園利用者数」



出典：環境省「国立公園の訪日外国人利用者数推計について」

公園全体の課題

- ①地域特性を活かした取組
(自然文化体験型ツーリズムや地域循環共生圏等を意識したエコツーリズムに更に取り組むこと)
- ②オーバーユースによる環境への負荷軽減と効果的でバランスの取れた誘客
(各地域内の多様性を活かした域内循環の促進、エリアごとの異なる特徴を活かした域間周遊の促進)
- ③自然保護に寄与する利用の推進
(災害などを含めて安全かつ快適な利用の推進、環境教育・脱炭素に関する取組の推進)



富士箱根伊豆国立公園（全体）

上質化された魅力を快適に満喫できる国立公園

観光資源の磨き上げ、新たな体験メニューの創出、受入態勢の整備等を通じて、訪れやすく過ごしやすい環境を整え、快適にその魅力を満喫することができる国立公園を目指す

滞在・周遊により特色ある魅力を体験できる国立公園

国立公園内で長期滞在・広域周遊し、地域ごとに特色が異なる自然や文化、地域固有で独特の産業・文化を体験することで、本質的な部分まで味わえる国立公園を目指す

脱炭素・循環型の取組を先導する国立公園

周辺の自然環境や地球環境への適切な配慮を推進することで、国内外の環境意識の高い旅行者にも訴求する、豊かな自然環境と共生した国立公園を目指す

目指すべき姿

利用者層

日本人

- 首都圏居住者の幅広い利用者層を第一のターゲット
- 「量」を持続的に確保しつつ「質」を向上
- 他地域への来訪者を増やす

外国人

- 多様な国々からの利用者を想定し、訪日旅行リピーターを主なターゲット
- 当面は、プロモーションや受入環境整備を実施
- その上で入国が可能となった圏域から順に、誘客を図る



目標

量

- 当面の間 : 新型コロナウイルスによる影響前の国内利用者数の復活
(2019年：1億3252万人)
- 収束した際 : 新型コロナウイルスによる影響前の訪日外国人利用者数の復活
(2019年：309万人)
- 期間中 : 上質な自然・文化体験型コンテンツの利用者の増加

質

国内利用者一人当たり消費額の増加及び満足度の更なる向上

地域協議会等の構築

- ・各エリアで設置する協議会を核に段階的に体制構築、拡充
- ・各エリア、各組織等の個性や特性に立脚した公園全体の体制構築
- ・地域住民や関連機関との連携や関係づくりを意識した体制構築



効果検証およびプログラムの改訂

- 実施期間中
 - ・各取組の実施状況、本プログラムの目標の達成状況を定期的に評価・検証
 - ・評価を踏まえて、その後の取組を実施
- 終年度
 - ・プログラム全体の評価



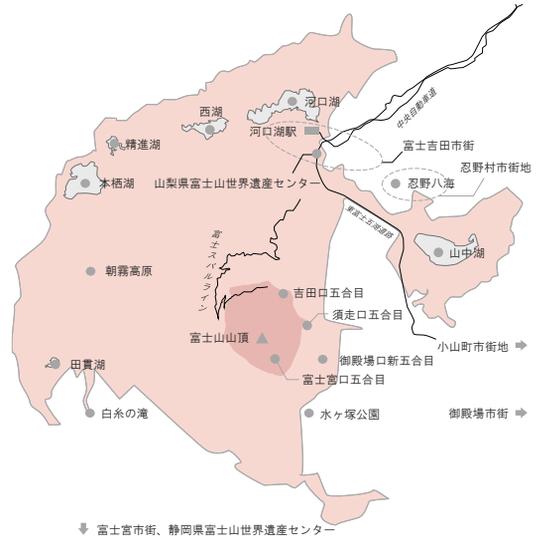
プログラムの実施状況や新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえながら、必要に応じて、地域協議会において見直し



富士山麓エリア

取組方針

1. エコツーリズムの普及と体験の充実
2. マスツーリズムによる弊害の緩和と、山麓地域の周遊利用の推進
3. 幅広い利用者が満喫できる利用環境の整備と、脱炭素や資源循環などの取組の推進



富士箱根伊豆国立公園
富士山・富士山麓エリアの公園区域

ターゲット

- ・ 国内の利用者をはじめ、高齢者や障がい者、外国人など多様な利用者
- ・ 当面は、首都圏をメインターゲットとしつつ、近隣県もターゲット
- ・ 環境保全やSDGsなどへの関心が高い企業(研修旅行)、学生(教育旅行)
- ・ 地元住民(地元住民の富士山麓に対する理解促進)
- ・ 中期的にはインバウンドの誘客



プロジェクト

①上質化された魅力を快適に満喫できる国立公園

プロジェクト	実施内容	実施主体
ア.適正利用推進に向けた体制構築	1 富士山麓におけるエコツーリズムを中心としたガイドの連携体制構築	関係事業者、NPO、自治体、環境省等
	原生的な自然の適正利用のあり方の検討	関係事業者、NPO、自治体、環境省等
イ.多様な利用者層への情報発信	1 富士山麓の魅力や利用にあたってのルール、マナーに関する情報の発信	関係事業者、NPO、自治体、環境省等
	2 各種利用拠点での富士山麓一帯に関する案内機能の強化	関係事業者、自治体、環境省

富士山麓エリア

②滞在・周遊により特色ある魅力を体験できる国立公園

プロジェクト	実施内容	実施主体
ア.コミュニティの 関係性の強化	1 情報共有や意見交換の場、機会の提供 (山麓トレイルの整備と維持管理)	関係事業者、NPO、環境省等
	ボランティア受入体制のネットワーク化	関係事業者、NPO、環境省等
イ.利用環境の整備、 充実、保全	1 猪之頭地区で過密状態にあるキャンプ場の整備	静岡県
	2 朝霧高原地区での周辺施設の利用を推進する 宿泊施設の誘致	富士宮市
	3 標識等の簡易ガイドラインの作成	自治体、環境省
	4 近自然工法による登山道整備の検討	関係事業者、NPO、自治体、 環境省等
	5 ユニバーサルマナー研修	富士北麓ユニバーサルアドベンチャーツーリズム協議会
	6 今後のロードキル対策等についての協議	富士山アウトドアミュージアム、自治体等
	7 田貫湖の展望デッキリニューアル	環境省
ウ.利用者の安全確保、 安全なエリアである ことの国内外への 情報発信	1 自然環境の状態や、利用者の動態に関する情報共有 の推進、共有及び公開の仕組みづくりの検討	富士山科学研究所、自治体
	2 安心・安全なエリアであることの国内外への情報発信	自治体、環境省
エ.既存施設を活かした 新たな利用の推進	1 ロングトレイルの活用	(一社)マウントフジトレイルクラブ、環境省等
	2 五合目以下の山麓の登山道、歩道の利用の推進	関係事業者、NPO、自治体、 環境省等
	3 古道や廃道の発掘と利用方法の検討	本栖湖西部観光協会、関係事業者、自治体、環境省等
オ.宿泊や滞在時間の 増加につながる コンテンツの開発強化 と情報発信	1 ワークেশョンの推進	関係事業者
	2 アドベンチャーツーリズムの推進	関係事業者、NPO、自治体、 環境省等
	3 マウンテンバイクの走行可能な道に関する意見交換	富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合
	4 ユニバーサルツーリズムの推進	富士北麓ユニバーサルアドベンチャーツーリズム協議会等
	5 他エリアとの差別化を意識した情報発信	自治体、環境省
	6 サイクルツーリズムの推進	山中湖村

③脱炭素・循環型の取組を先導する国立公園

プロジェクト	実施内容	実施主体
ア.地域住民、ボラン ティアとの連携強化	1 住民向けの情報発信	自治体、環境省
	2 セミナー、体験会等の開催、 体験しながら学ぶ機会の創出	富士山科学研究所、環境省
イ.ゴミ問題の対応と 脱プラスチック、 再生可能エネルギー 利用の促進	1 ゴミ問題への今後の対応のあり方の検討	関係事業者、自治体、 富士山クラブ、環境省等
	2 脱プラスチックに向けた取組推進	関係事業者、自治体、 富士山クラブ、環境省等
ウ.持続可能な取組を 学ぶサステナブル ツーリズムの推進	1 SDGsの取組の集約・整理	富士五湖観光連盟
	2 企業や学生向けのSDGsツアーの企画、実施	関係事業者



箱根エリア

取組方針

1. 自然体験等のエントリー層でも満喫できる、適正で良質な利用の推進
2. 周遊・滞在利用促進のための新たなコンテンツ開発、利用環境の整備
3. 脱炭素や資源循環など、持続可能な観光の実現に向けた取組の推進

ターゲット

- 首都圏からの来訪者をはじめ、国内外の幅広い利用者（国内の利用者、東京を訪れる外国人旅行者等）
- 当面は、国内旅行者の復活を目指し、首都圏更には近隣県もターゲット
- 自然体験や環境学習などをテーマに、未就学の子ども達や小中高の教育旅行にも取組む
- 中期的にはインバウンドの誘客



富士箱根伊豆国立公園
箱根エリアの公園区域

プロジェクト

①上質化された魅力を快適に満喫できる国立公園

プロジェクト	実施内容	実施主体
ア.箱根エリア内の主要地点における景観の改善・向上	1 景観改善が必要な地点の整理に係る協議	箱根町、神奈川県、環境省
	2 景観改善に向けた取組推進に係る協議	民間事業者、箱根町、神奈川県、環境省
	3 景観イメージの更なる向上に繋がる地点の整理に係る協議	箱根町、神奈川県、環境省
	4 景観向上のための取組推進に係る協議	民間事業者、箱根町、神奈川県、環境省
イ.畑引山集団施設地区（箱根やすらぎの森、森のふれあい館、白浜、道の駅箱根峠）の保全と利用の推進	1 保全と利用促進の方策についての協議、取組推進	箱根町、箱根DMO、環境省
	2 連携による管理・運営方策についての協議、取組推進	箱根町、箱根DMO、環境省
ウ.コンテンツの充実と情報発信の推進	1 アドベンチャーツーリズムの推進	民間事業者、箱根DMO、環境省
	2 芦ノ湖での水上アクティビティ教室の開催	民間事業者
	3 電子化された遊漁券と観光施設が連携する取組推進	民間事業者
	4 他エリアとの差別化を意識した情報発信に係る協議	民間事業者、箱根町、箱根DMO、神奈川県、環境省

箱根エリア

①上質化された魅力を快適に満喫できる国立公園

プロジェクト	実施内容		実施主体
エ.質の高い人材、担い手となる人材の育成	1	セミナー、体験会等の学びの機会の創出、開催	民間事業者、箱根DMO、環境省
	2	ガイドを実践できる質の高い人材の育成	箱根DMO
	3	ガイド間の連携の強化の推進	箱根DMO

②滞在・周遊により特色ある魅力を体験できる国立公園

プロジェクト	実施内容		実施主体
ア.ハイキングコースや歩道等の環境整備と情報発信の推進	1	魅力的なハイキングコースの整理	箱根DMO
	2	外国語対応も含めたハイキングに関する情報発信	箱根DMO
	3	芦ノ湖西岸側歩道についての協議、取組推進に係る協議	箱根町、神奈川県、林野庁、環境省
	4	ジオパークや他地域を繋ぐ道の整備について協議、検討	箱根町、箱根DMO、環境省
イ.混雑回避、周遊促進のための取組の推進	1	一元的な情報発信の推進	箱根DMO
	2	観光型MaaSの推進	民間事業者
	3	サブスクリプション型の利用チケット発売と参加施設拡大	民間事業者
ウ.宿泊や滞在時間の増加につながるコンテンツの開発強化と情報発信	1	モーニングタイム、ナイトタイムの利用推進	民間事業者、箱根町、箱根DMO、環境省
	2	安全確保をした形での大涌谷自然研究路におけるプログラムづくりに係る協議	箱根町、箱根DMO、神奈川県
	3	各地区内での周遊促進のためのマップ等制作、情報発信	箱根DMO
エ.来訪者の安全確保と、安心・安全な観光地であることの国内外への情報発信	1	登山者や観光客の安全確保のために必要な方策、取組推進に係る協議	箱根町、箱根DMO、神奈川県
	2	安全・安心な観光地であることの国内外への情報発信	箱根DMO
オ.箱根エリア全体での情報共有、エリア内での連携推進と強化	1	情報共有、意見交換、体験活動等の機会創出	箱根DMO
	2	エリア内での連携の強化	箱根DMO

③脱炭素・循環型の取組を先導する国立公園

プロジェクト	実施内容		実施主体
ア.環境学習のフィールドとしての利用や情報発信の推進	1	マナーやルール等の啓発のための教室開催	民間事業者、箱根町、箱根DMO
	2	町民参加型の環境保全活動の企画・イベント開催	民間事業者、箱根町、箱根DMO、神奈川県、林野庁、環境省
	3	教育現場における環境学習の動向把握、体験フィールドとしての箱根の情報発信	箱根町、箱根DMO
イ.脱プラスチック、再生可能エネルギー利用の促進	1	脱プラスチックに向けた取組推進	民間事業者、箱根町、箱根DMO、環境省
	2	再生可能エネルギーの利用検討	民間事業者、箱根町、箱根DMO、環境省
ウ.持続可能な観光(サステナブルツーリズム)の推進	1	サステナブルツーリズムの推進	民間事業者、箱根町、箱根DMO、環境省